

大阪湾漁場環境速報

平成31年 1月10日発行
兵庫のり研究所

今回は時化のため、神戸地先から湾奥の地点のみの調査でした。窒素は概ね $6 \mu\text{g-at/L}$ 以上の値となっており、栄養塩は十分量で推移しています。全域でコシノディスカスが確認されますが、それ以外の珪藻の発生量は少ない状況です。

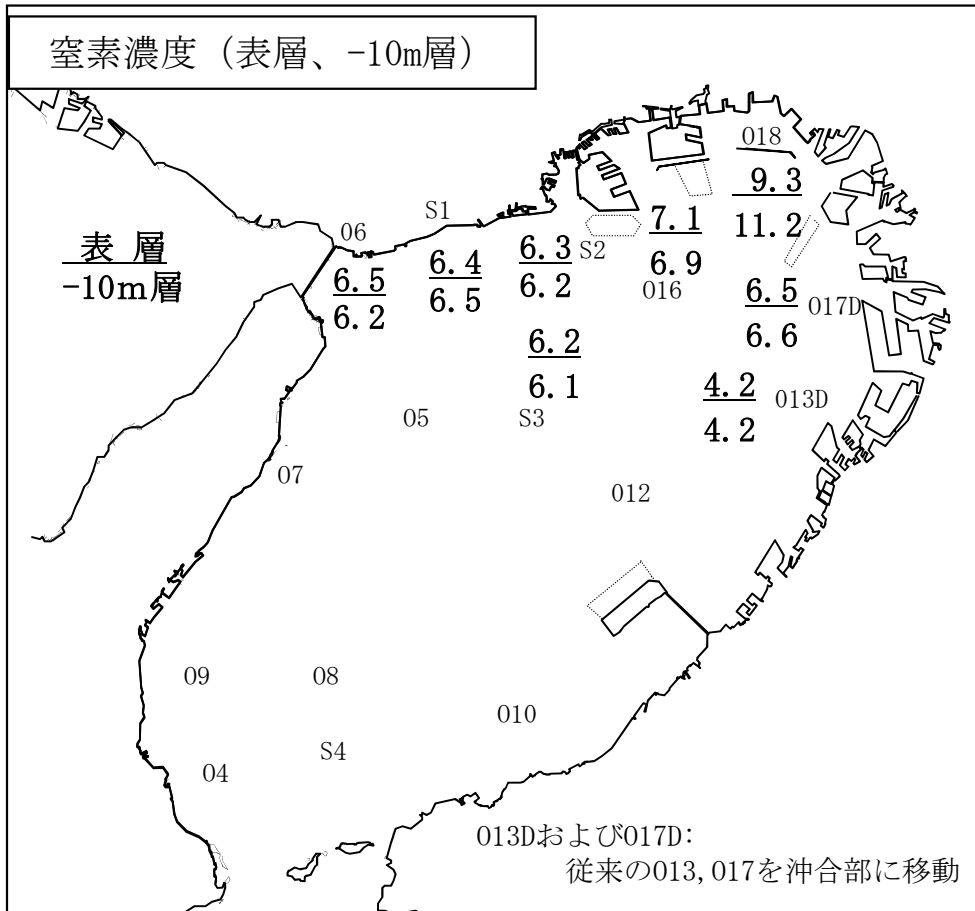
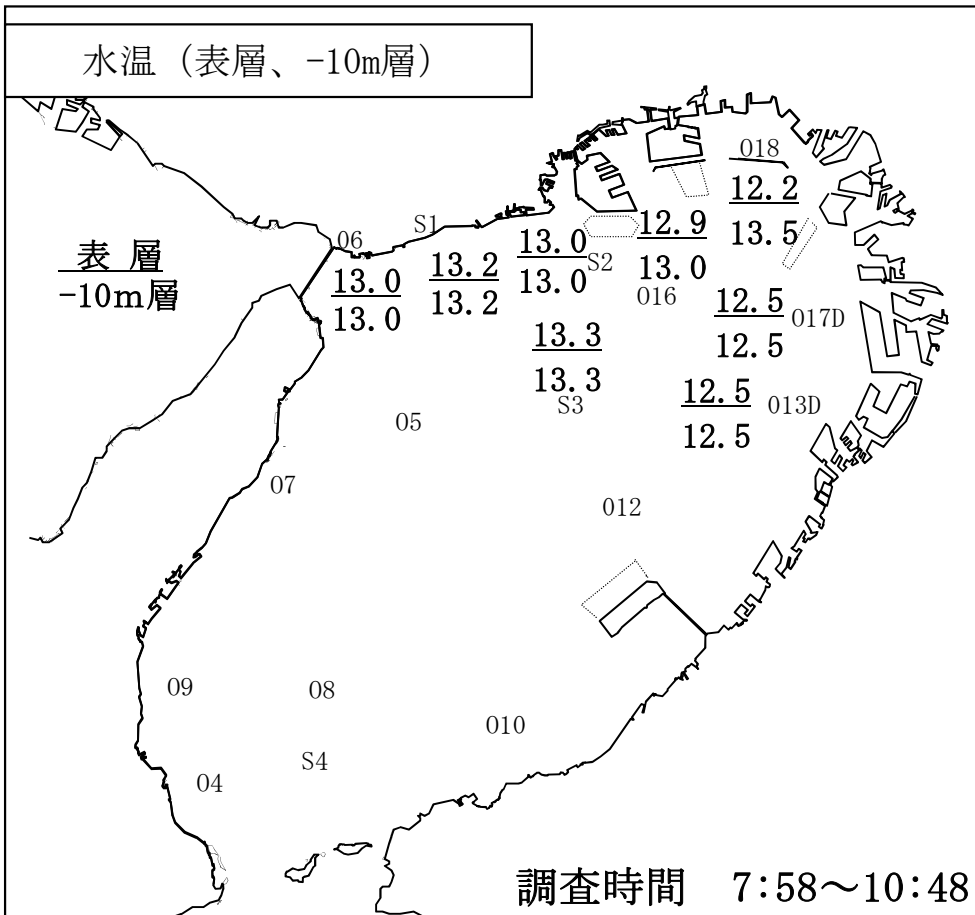
(水温) 表層は湾内12.2~13.3℃、平年と比較し約1.0℃高い。-10m層は12.5~13.5℃。

(塩分) 表層平均32.17psu(平年 31.74)。-10m層平均32.20psu(平年 32.14)。

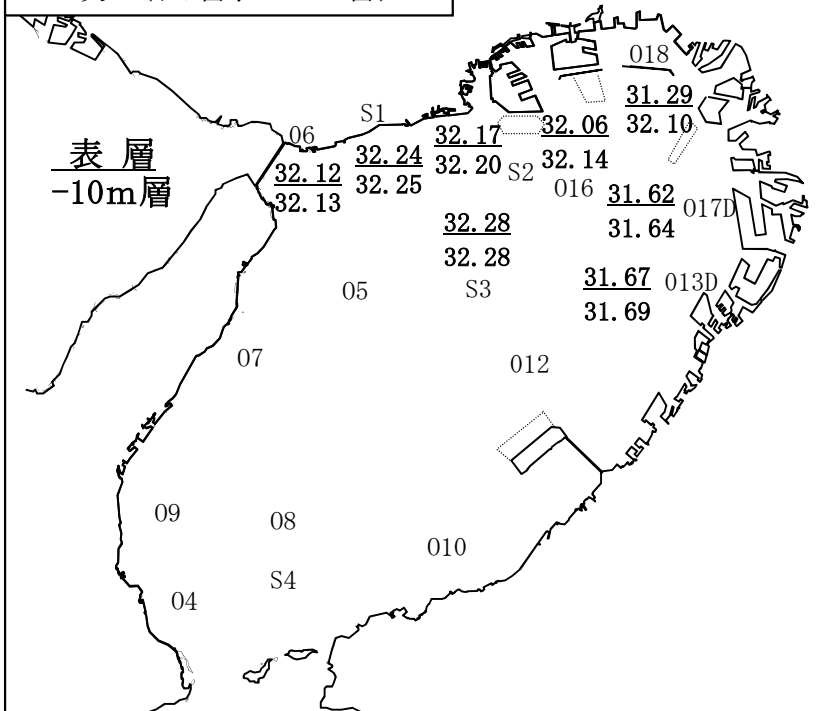
(栄養塩、他) 表層の窒素は4.2~9.3 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは0.29~0.56 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年よりやや低く、リンは概ね平年並。-10m層は窒素4.2~11.2 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.33~0.80 $\mu\text{g-at/L}$ 。全域で大型珪藻コシノディスカスが確認されるが、それ以外の珪藻(キートセロスやスケルトネマ等)は少し見られる程度で少ない状況。湾奥部において渦鞭毛藻(Akashiwo sanguinea)が多く発生しており、このプランクトンによる海水の着色が確認された。このプランクトンは栄養塩を消費する為、大量発生していた堺沖(地点O13D)では栄養塩がやや低い値であった。

上段(今回値)	平成31年 1月 9日調査
中段(昨年値)	平成30年 1月12日調査
下段(平年値)	1月上旬

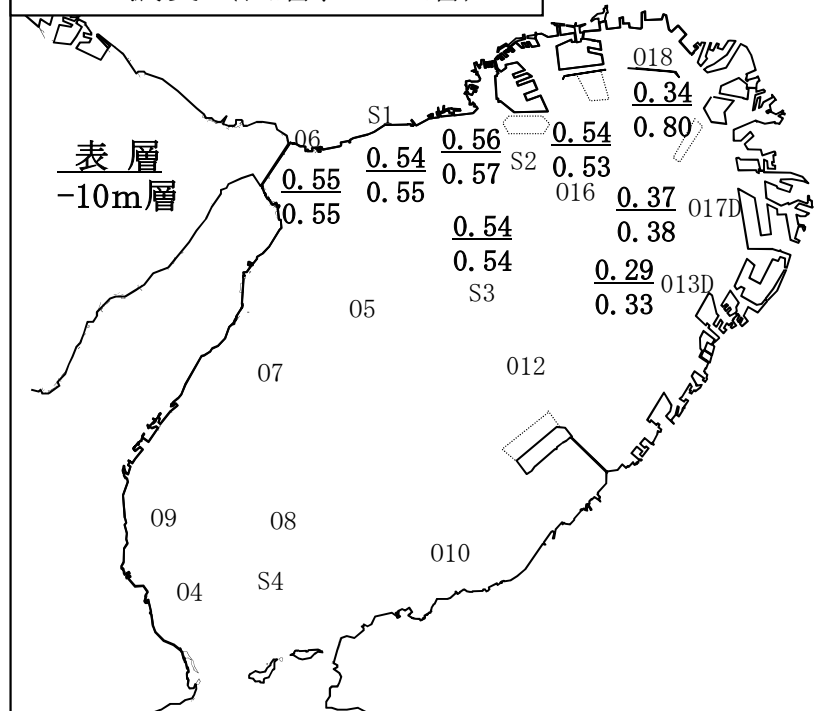
調査地点	水温(℃)	塩分(psu)	三態窒素($\mu\text{g-at/L}$)	リン酸($\mu\text{g-at/L}$)
04	13.2	32.74	6.6	0.58
05	12.2	32.00	6.1	0.55
06	13.0	32.12	6.5	0.55
	10.4	31.71	5.4	0.55
07	11.7	31.91	7.1	0.57
08	12.3	32.13	6.2	0.59
09	12.7	32.18	6.3	0.57
10	12.9	32.37	6.3	0.58
12	11.8	31.95	7.0	0.54
13D	11.1	31.11	11.4	0.49
	12.5	31.67	4.2	0.29
16	11.2	30.89	12.4	0.54
	12.9	32.06	7.1	0.54
17D	10.6	31.40	8.5	0.49
	11.1	30.24	15.4	0.51
18	12.5	31.62	6.5	0.37
	10.7	29.05	26.1	0.73
S1	12.2	31.29	9.3	0.34
	10.5	30.91	10.5	0.53
S2	10.8	28.73	31.4	0.94
	13.2	32.24	6.4	0.54
S3	10.8	31.86	6.9	0.56
	11.4	31.30	9.4	0.49
S4	13.0	32.17	6.3	0.56
	10.4	31.69	7.3	0.53
S3	11.1	30.81	11.8	0.47
	13.3	32.28	6.2	0.54
S4	11.6	31.50	7.5	0.49
	12.6	32.39	6.7	0.59



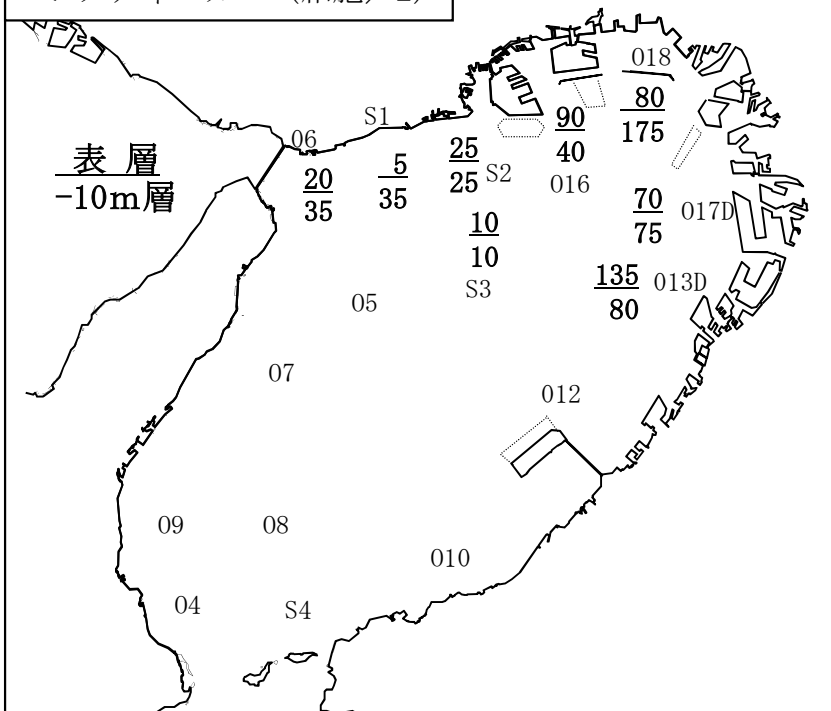
塩分 (表層、-10m層)



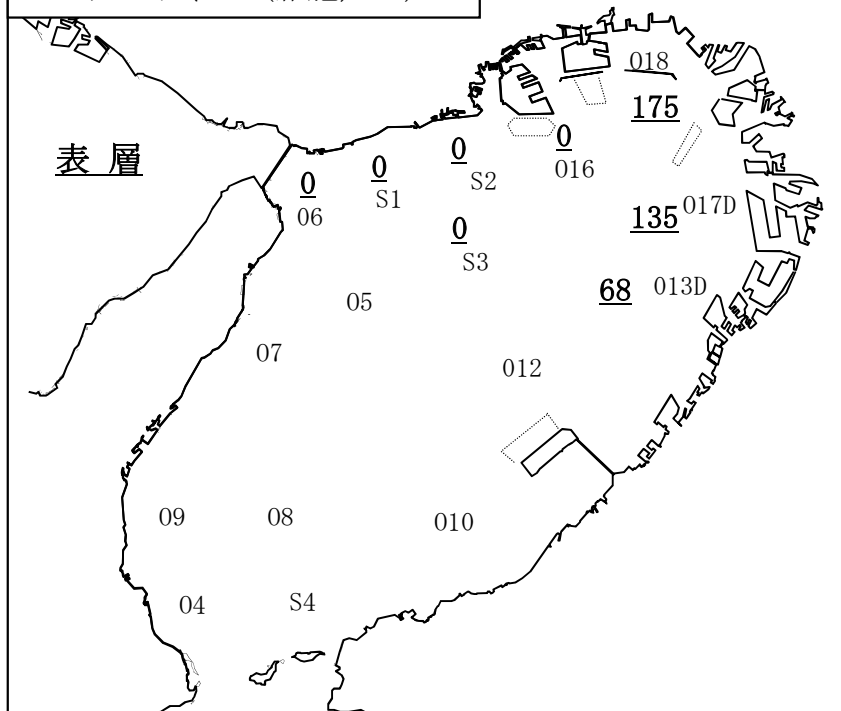
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

